

2024年総会 議 案 書

2024年6月8日（土）

議 題

1. 2023年度事業報告
2. 2023年度決算報告
3. 2024年度事業計画案
4. 2024年度予算案
5. 2024年度－2025年度 理事・監事候補者

日 本 出 版 学 会

<https://www.shuppan.jp> e-mail : info@shuppan.jp

〒166-0015 東京都杉並区成田東 4-35-23

TEL : 03-3313-7347 FAX : 03-3313-7348

2023 年度事業報告 (2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

1. 概 況

1969 年 3 月に設立された日本出版学会は、創立から 55 年をむかえ、新たな時代への歩みを進めている。これまで設立の理念と志を尊重し、円滑な研究者の交流や情報交換をおこない、研究成果の発表のために、学会誌や会報の発行、研究発表会や各種の部会活動、そして国際出版研究フォーラム（IFPS：The International Forum on Publishing Studies）への参加を継続的にこなってきた。

これらが可能となったのは、何よりも学会を構成する会員の方々の努力と、経済的な支援をはじめ様々な便宜をはかっていただいている賛助会員の方々のご協力の賜物であり、ここに改めて深甚なる感謝の意を表したい。

2023 年度における日本出版学会の活動は、それまでの研究や人的交流の蓄積に基づいて着実に進められ、出版研究に対する関心は一層高められた。特に 2020 年度より開始した産学連携プロジェクトにより、積極的に出版業界との連携を推進した結果、日本書籍出版協会や出版文化産業振興財団との交流に繋がった。これは日本出版学会の歴史の中でも特筆すべきことである。

春季研究発表会は、2023 年 5 月 13 日に跡見学園女子大学文京キャンパスで開催した。参加者は 68 名であり、4 名の研究発表、1 つのワークショップ、1 つの基調講演をおこなった。

また、秋季研究発表会は、2023 年 12 月 2 日に同志社女子大学今出川キャンパスで開催し、43 名の参加者で、7 名の研究発表および 2 つのワークショップをおこなった。

2. 会員数

正会員	270 名
賛助会員	法人 31 社
名誉会員	2 名
(2024 年 3 月末日現在)	

3. 総 会

2023 年総会は、2023 年 5 月 13 日、跡見学園女子大学文京キャンパスで 83 名（委任状を含む）の会員が出席、2022 年度事業報告、同決算、同特別会計決算、2023 年度事業計画案、同予算案、同特別会計予算案をそれぞれ審議・可決した。

4. 理事会

2023 年度の会務をおこなうため、2022 年総会から本総会に至るまでの間、理事会を下記のとおり開催した。

- 第 1 回： 2023 年 6 月 19 日
- 第 2 回： 2023 年 9 月 11 日
- 第 3 回： 2023 年 12 月 11 日
- 第 4 回： 2024 年 3 月 18 日
- 第 5 回： 2024 年 5 月 7 日
- 第 6 回： 2024 年 6 月 8 日

5. 調査研究委員会

調査研究委員会は、主として各部会間の連絡調整にあたった。各部会の活動状況は次のとおりである。

- (1) 学術出版研究部会
今後の研究課題、部会運営について検討をおこなった。
- (2) 雑誌研究部会
3月26日（オンライン）「ビデオゲーム関連雑誌とその研究可能性」毛利仁美
- (3) 出版アクセシビリティ研究部会
5月13日（跡見学園女子大学文京キャンパス）
「アクセシブルな EPUB 出版物の制作における課題——日本出版学会学会誌を事例にして」梶原治樹・池下花恵・岩本崇・植村要・鷹野凌（春季研究発表会ワークショップ）
- (4) 出版技術研究部会
今後の研究課題、部会運営について検討をおこなった。
- (5) 出版教育研究部会
12月2日（同志社女子大学今出川キャンパス）
「出版教育と実務学のテキスト作り——一人出版社「出版メディアパル」を例にして」伊藤民雄・本多悟・下村昭夫・清水一彦・湯浅俊彦（秋季研究発表会ワークショップ）
- (6) 出版産業研究部会
9月28日（専修大学神田キャンパス）「公共図書館の所蔵および貸出は新刊書籍の売上にどの程度影響するか：解説と補足」大場博幸
3月15日（専修大学神田キャンパス）「本屋の新しい業態研究——シェア型本棚と公営書店（八戸ブックセンター）」植村八潮・梅本優希・湊梨々子
- (7) 出版史研究部会
7月26日（オンライン）「近代朝鮮における出版文化の形成と展開」田中美佳（日本出版学会賞受賞記念講演会）
9月6日（専修大学神田キャンパス＋オンライン）「近代日本におけるメディア文化圏としての「地下出版」」大尾侑子（日本出版学会賞受賞記念講演会）
- 3月11日（専修大学神田キャンパス）「R. ダーントン著／上村敏郎、八谷舞、伊豆田俊輔訳『検閲官のお仕事』（みすず書房）を読む トークセッション」上村敏郎・伊豆田俊輔・大尾侑子
- (8) 出版デジタル研究部会
今後の研究課題、部会運営について検討をおこなった。
- (9) 出版編集研究部会
12月12日（オンライン）「新書の窓から「出版」を考える——編集者の視点から」渡辺千弘
2月8日（オンライン）「「出版指標」の統計と現在の出版業界」原正昭
- (10) 出版法制研究部会
今後の研究課題、部会運営について検討をおこなった。
- (11) 翻訳出版研究部会
4月16日（日本出版クラブ）「シェイクスピア全集」松岡和子
7月21日（文京シビックホール）「ライブニッツ著作集」十川治江
10月13日（文京シビックホール）「「在野」のアメリカ文学研究と全集出版」井上健
- (12) MIE 研究部会
10月4日（専修大学神田キャンパス）「ニューヨークのMIE 実態調査報告」富川淳子
- (13) 関西部会
1月20日（オンライン）「電子ジャーナルとリンクリゾルバの普及期の省察」増田豊
- 6. プログラム委員会**
総務委員会と調査研究委員会によって構成される合同委員会を開催し、研究発表会の企画・運営に当たった。

(1) 春季研究発表会 (2023 年 5 月 13 日、跡見学園女子大学文京キャンパス)

〈研究発表〉

1. 「子宮頸がんワクチンの報道において実施されたリスク・キャラクター化に關する実証研究」 本多祥大
2. 「文学賞受賞の表示が書籍の購買意欲に及ぼす影響」 浅川雅美・菊地桃華・岡野雅雄
3. 「日本と中国の出版研究比較——戦後から 2000 年代までの出版関係書籍を対象に」 伊藤民雄
4. 「中西嘉助の出版活動と明治維新——江戸期書肆から明治期出版社への移行」 中西秀彦
〈基調講演〉

1. 「文藝春秋のこれまでとこれから」 飯窪成幸
〈ワークショップ〉

1. 「アクセシブルな EPUB 出版物の制作における課題——日本出版学会学会誌を事例にして」 梶原治樹・池下花恵・岩本崇・植村要・鷹野凌

(2) 秋季研究発表会 (2023 年 12 月 2 日、同志社女子大学今出川キャンパス)

〈研究発表〉

1. 「1980 年代の「おたく雑誌」における「おたく」の自己語り——アニメ雑誌とパソコンゲーム雑誌の比較を通して」 久野桜希子
2. 「講談社 X 文庫が見せた作家・作品展開のグラデーション——“ライトノベルのメディア史”における位置づけの再検証」 山中智省
3. 「韓国における男性軍人の身体へのまなざし——ミリタリー雑誌における美容整形広告の考察から」 小平沙紀
4. 「海外の雑誌作り教育に関する調査報告お

よび考察——New York における MIE (Magazine in Education) の目的とその教育効果」 富川淳子

5. 「明治十年代、板木購入・運用の実態とその背景——桂雲堂豊住書店史料から見えてくるもの」 磯部敦
6. 「紙書籍としての絵本——制作から受容までの一連の流れのなかで」 山内棕子
7. 「試論 専門書出版における「わかりやすさ」を考える——認知心理学の知見を手がかりとして」 大橋鉄雄
〈ワークショップ〉

1. 「出版教育と実務学のテキスト作り——一人出版社「出版メディアパル」を例にして」 伊藤民雄・本多悟・下村昭夫・清水一彦・湯浅俊彦
2. 「学術出版の現在と未来」 中村健、中西秀彦、秦洋二、湯浅俊彦

7. 日本出版学会賞

(1) 受賞図書・論文

第 44 回日本出版学会賞は、下記のとおりである。

【日本出版学会賞奨励賞】

大尾侑子 著『地下出版のメディア史——エロ・グロ、珍書屋、教養主義』（慶應義塾大学出版会）

田中美佳 著『朝鮮出版文化の誕生——新文館・崔南善と近代日本』（慶應義塾大学出版会）

【清水英夫賞（日本出版学会優秀論文賞）】

山中智省 著「「ライトノベル」が生まれた場所——朝日ソノラマとソノラマ文庫」（『出版研究』第 52 号掲載）

(2) 日本出版学会賞審査委員会

日本出版学会賞審査委員会は、第 45 回日本出版学会賞の審査にあたった。

(3) 受賞記念講演会

1. 7月26日(オンライン)「近代朝鮮における出版文化の形成と展開」田中美佳
2. 9月6日(専修大学神田キャンパス+オンライン)「近代日本におけるメディア文化圏としての「地下出版」」大尾侑子

8. 『出版研究』編集委員会

『出版研究』編集委員会は、学会誌『出版研究』の企画・編集にあたり、第53号(A5判、104頁、600部、定価：本体2,600円+税)を2023年4月に発行し、引き続き第54号(A5判、600部、定価：本体2,600円+税)の編集をおこなった。

9. 広報委員会

広報委員会は、学会活動に関する対外的広報活動を随時おこなうとともに、学会案内の作成、および『日本出版学会会報』の企画・編集にあたり、次の各号を発行した。

第154号=24頁、2023年4月10日(700部)
第155号=28頁、2023年10月31日(700部)

また、公式ウェブサイトの充実をはかり、情報発信をおこなった。

10. 関西委員会

関西委員会は、調査研究委員会と協力して、学会の秋季研究発表会の運営にあたった。

11. 国際交流委員会

国際交流委員会は、第21回国際出版研究フォーラム(IFPS)(日本開催)に向け、企画・運営をおこなった。

12. 役員(2024年度総会まで)

会長=富川淳子

副会長=清水一彦 中西秀彦 山崎隆広

理事=飛鳥勝幸 安部由紀子 池下花恵

石川徳幸 石田あゆう 伊藤民雄 植村要

牛山佳菜代 梶原治樹(事務局長)

駒橋恵子 鈴木親彦 鷹野凌 玉川博章

長尾宗典 中村幹(財務担当) 橋元博樹

秦洋二 本多悟 宮下義樹

村木美紀(事務局次長) 森貴志 山中智省

山中秀夫 湯浅俊彦

監事=茨木正治 塚本晴二郎

13. 委員会メンバー

(◎=委員長・部会長、○=副委員長)

(1) 総務委員会=◎石川徳幸 牛山佳菜代
梶原治樹 清水一彦 玉川博章 富川淳子
中西秀彦 中村幹 村木美紀 森貴志
山崎隆広

(2) 調査研究委員会=森貴志
学術出版研究部会=◎橋元博樹 山崎隆広
吉田拓歩

雑誌研究部会=◎山中智省 玉川博章
石川徳幸 田島悠来

出版アクセシビリティ研究部会=◎野口武悟
植村要(担当理事)

出版技術研究部会=◎矢口博之
中村幹(担当理事)

出版教育研究部会=◎伊藤民雄 ○本多悟
清水一彦

出版産業研究部会=◎鈴木親彦 岡部友春
橋元博樹

出版史研究部会=◎長尾宗典 柴野京子
石川徳幸

出版デジタル研究部会=◎鷹野凌 梶原治樹
徳永修 藤井健人 堀鉄彦 矢口博之

出版編集研究部会＝◎飛鳥勝幸 小林えみ
吉田拓歩

出版法制研究部会＝◎宮下義樹

翻訳出版研究部会＝◎柴田耕太郎

安部由紀子（担当理事）

MIE 研究部会＝◎清水一彦 富川淳子

関西部会＝◎中村健 石田あゆう 磯部敦

中西秀彦 秦洋二 村木美紀 山中秀夫

湯浅俊彦

（3）『出版研究』編集委員会＝◎玉川博章
飛鳥勝幸 稲田隆 上田宙 鷹野凌 辻泉
中川裕美 山崎隆広 山中智省 山森宙史
吉田拓歩

（4）広報委員会＝◎牛山佳菜代 石川徳幸
秦洋二

（5）関西委員会＝◎中西秀彦 石田あゆう
磯部敦 中村健 秦洋二 村木美紀
山中秀夫 湯浅俊彦

（6）国際交流委員会＝◎山崎隆広 植村八潮

（7）日本出版学会賞審査委員会＝◎富川淳子
塚本晴二郎 石川徳幸 石田あゆう
清水一彦 鈴木親彦 村木美紀

（8）プログラム委員会＝◎宮下義樹
駒橋恵子 湯浅俊彦

（9）産学連携プロジェクト＝梶原治樹
村木美紀

15. 「産学連携」プロジェクト

出版学会と出版業界の新しい連携を模索したこのプロジェクトにより、出版文化産業振興財団からも調査研究での協力要請を受けた。

日本出版学会2023年度決算報告

以下のとおり報告いたします。

会 長 富川淳子
 副会長 清水一彦 中西秀彦 山崎隆広
 理 事 飛鳥勝幸 安部由紀子 池下花恵 石川徳幸 石田あゆう 伊藤民雄 植村要
 牛山佳菜代 梶原治樹 駒橋恵子 鈴木親彦 鷹野凌 玉川博章 長尾宗典
 中村幹 橋元博樹 秦洋二 本多悟 宮下義樹 村木美紀 森貴志 山中智省
 山中秀夫 湯浅俊彦

監査は結果公正なものと認めます。

監 事 茨木正治  塚本晴二郎 

【 貸 借 対 照 表 】

2024年3月末日現在

資 産 の 部		
科 目	金 額	備 考
現 金	494,066	
振替預金	2,152,440	東京貯金局
普通預金①	2,810,297	三井住友銀行飯田橋支店
普通預金②	0	三菱UFJ銀行市ヶ谷支店
普通預金③	1,869,191	三菱UFJ銀行神保町支店
普通預金④	3,054,781	みずほ銀行京橋支店
合 計	10,380,775	
負債・資本の部		
科 目	金 額	備 考
前 受 金	0	
未 払 金	4,000,415	55周年寄付金等（特別会計へ）
前期繰越金	5,812,367	
当期正味財産増加額	567,993	
合 計	10,380,775	

日本出版学会2023年度決算報告

【 収 支 計 算 書 】

自2023年4月1日～至2024年3月31日

収 入 の 部				
科 目	2022年度決算	2023年度予算	2023年度決算	対前年比
入会金	55,000	60,000	65,000	18.18%
正会員会費	2,179,000	2,200,000	2,305,000	5.78%
過年度分会費	315,000	300,000	250,000	-20.63%
賛助会員会費	1,370,000	1,400,000	1,430,000	4.38%
研究会収入	110,000	150,000	99,000	-10.00%
懇親会収入	0	400,000	235,000	—
雑収入	39	40	47	20.51%
図書代金	222,300	150,000	176,272	-20.71%
寄附金	30,000	30,000	30,000	0.00%
当期収入合計 (A)	4,281,339	4,690,040	4,590,319	7.22%
前期繰越収支差額	5,399,697	5,812,367	5,812,367	7.64%
収入合計 (B)	9,681,036	10,502,407	10,402,686	7.45%
支 出 の 部				
科 目	2022年度決算	2023年度予算	2023年度決算	対前年比
出版研究経費	491,046	500,000	378,098	-23.00%
会報製作費	231,220	250,000	251,020	8.56%
ウェブ等広報費	142,870	142,870	142,870	0.00%
研究会費	173,129	300,000	170,300	-1.63%
懇親会費	0	400,000	251,450	—
出版学会賞経費	154,182	170,000	136,738	-11.31%
会議費（理事会・総務委）	2,200	10,000	0	—
通信費	275,325	300,000	282,485	2.60%
印刷費	23,560	27,000	25,200	6.96%
旅費交通費	56,000	100,000	55,640	—
業務委託料	2,244,000	2,244,000	2,244,000	0.00%
備品費	0	0	0	—
事務用消耗品費	17,527	25,000	28,725	63.89%
諸会費	50,000	50,000	50,000	0.00%
雑費	7,610	8,000	5,800	-23.78%
予備費	0	0	0	—
当期支出合計 (C)	3,868,669	4,526,870	4,022,326	3.97%
当期収支差異 (A)-(C)	412,670	163,170	567,993	—
次期繰越収支差額 (B)-(C)	5,812,367	5,975,537	6,380,360	9.77%

日本出版学会2023年度特別会計

【 収 支 計 算 書 】

自2023年4月1日～至2024年3月31日

収 入 の 部			
科 目	2022年度決算	2023年度予算	2023年度決算
前期繰越金	2,432,792	2,432,808	2,432,808
周年記念事業寄付金（個人）	0	250,000	465,000
周年記念事業寄付金（法人）	0	2,500,000	3,540,000
東京経済大学補助金	0	0	0
大会収入	0	0	0
雑収入	16	15	16
合 計	2,432,808	5,182,823	6,437,824
支 出 の 部			
科 目	2022年度決算	2023年度予算	2023年度決算
周年記念事業経費	—	150,000	—
大会支出	0	—	0
印刷費	0	—	47,866
通信費	0	—	33,600
事務費	0	—	6,235
雑費	0	3,000	4,805
予備費	0	0	0
支出合計	0	153,000	92,506
繰 越 金	2,432,808	5,029,823	6,345,318

【 資 産 状 況 一 覧 】

2024年3月31日現在

資 産 の 部		
科 目	金 額	備 考
普通預金①	1,825,647	三井住友銀行飯田橋支店
未入金	4,000,415	* 寄付金等の通常会計への入金分
小口現金	519,256	
合 計	6,345,318	

2024 年度事業計画 (2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

1969 年 3 月に設立された日本出版学会は、2024 年 3 月に創立 55 周年を迎え、学術研究団体として、確固たる地位を築きつつある。デジタル・ネットワーク社会における出版メディアのあり方は劇的に変化し、出版研究の重要性はますます高まっている。出版研究が新たな段階に入っていると捉え、出版および出版学の射程を広げるとともに、原点を確認する研究活動を進める。

そこで当学会は、従来の出版研究の諸分野の活動を以下のように継続・拡大するとともに、創立 55 周年記念事業の企画を検討・実施し、次の世代に対する責任を果たしたいと考えている。

1. 研究活動の推進と充実

① 研究部会活動の推進

当学会の活動がその規模に比較して活発である背景には、多様な部会活動があるといえよう。今後とも会員の期待に応えるべく、さらに積極的な部会活動がおこなわれるように努力したい。

② 研究発表会の拡充

春季および秋季研究発表会において積極的な発表が続いており、活発な議論がおこなわれている。また時代の研究課題に応えるシンポジウム、ワークショップの企画や、基調講演もあり、毎回、多数の参加者を数えている。今後とも、学術的水準向上の観点から、研究発表会をより充実させるため、会員の積極的な発表や会員間の討論の場を

増やしていきたい。

③ 学会誌の発行

『出版研究』第 55 号の企画・編集を進め、年度内の発行を予定する。

2. 研究活動のネットワークの拡大

1984 年 10 月に最初の国際出版研究フォーラム(IFPS)が韓国ソウルで開催された。以来、40 年あまりの間に我々は様々な交流を通じて、より内容を深めた議論をおこなう段階に到達している。I F P S の継続運営や海外在住会員との恒常的な連携、また部会活動を通じた国内の研究者間のネットワークも拡大している。なお、2024 年 11 月には、日本で開催を予定している第 21 回 I F P S を実施し、各国との研究交流を進めたい。

3. 会勢と財政の充実

当学会は当初 66 名の発起人によって設立されたが、現在、会員数は約 300 に至った。しかし、学術研究団体としては決して多い数ではなく、その社会的使命を果たすためには、より多くの会員を擁することが必要と思われる。日常の部会活動や各種の刊行物を通じて、会員の獲得、会勢の充実を期したいと考えている。

また、学会財政は、長期にわたって出版産業の経済活動が停滞していることも要因となって、厳しい状況にある。ここ数年の

経費節減の取り組みによって、現在は均衡を保っているものの、さらなる経費節減を進めている。

4. 広報活動の充実

①『日本出版学会会報』

本年においては2号の発行を予定し、内容の充実を図る。

②ウェブサイトの拡充

ウェブサイトの情報発信力を高め、会員間の情報交換を密にする。また会報との連動によって学会の公知化に資することとする。

5. 日本出版学会賞の審査・授与

学会創立10周年を記念して創設された日本出版学会賞については、その後、毎年継続されており、本年も審査・授与をおこなう。

また、『出版研究』掲載論文を対象に2016年度に新設した「清水英夫賞（日本出版学会優秀論文賞）」は、隔年審査をしており、2024年度は審査・授与をおこなう。

6. 『出版研究』『会報』の電子化

創立50周年事業として開始した『出版研究』及び『日本出版学会会報』の電子化を継続する。なお『出版研究』については、アクセシビリティの実現を目指して研究を継続する。

7. 創立55周年記念事業

2024年11月に開催される創立55周年記念事業に向け、野間省伸氏を委員長とする日本出版学会創立55周年記念事業委員会による募金活動を継続し、11月8日（金）には記念セミナーおよび祝賀会を、翌9日（土）には第21回IFPSを開催する。

8. 「産学連携」プロジェクト

前年に続き担当理事を置き、出版文化産業振興財団（JPIC）等の出版産業に関わる関連団体との交流を具体化していく。創立55周年関連事業については、JPICが10～11月にかけて主導する本のイベント「BOOK MEETS NEXT2024」と相互に連携し、イベントの活性化と新たな人材交流を図る。

9. 出版学研究隣接学会・団体等への研究・活動協力

NPO法人本の学校主催によるシンポジウムへの協力など、隣接する学会・団体との交流を促進し、相互に研究活動を協力する。

日本出版学会2024年度予算案

【 収 支 計 算 書 】

自2024年4月1日～至2025年3月31日

収 入 の 部			
科 目	2023年度決算	2024年度予算	備 考
入会金	65,000	60,000	
正会員会費	2,305,000	2,200,000	
過年度分会費	250,000	250,000	
賛助会員会費	1,430,000	1,350,000	
研究会収入	99,000	80,000	
懇親会収入	235,000	250,000	
雑収入	47	500	
図書代金	176,272	150,000	
寄附金	30,000	30,000	
当期収入合計 (A)	4,590,319	4,370,500	
前期繰越収支差額	5,812,367	6,380,360	
収入合計 (B)	10,402,686	10,750,860	
支 出 の 部			
科 目	2023年度決算	2024年度予算	備 考
出版研究経費	378,098	650,000	
会報製作費	251,020	250,000	
ウェブ等広報費	142,870	145,000	
研究会費	170,300	170,000	
懇親会費	251,450	300,000	
出版学会賞経費	136,738	150,000	
会議費（理事会・総務委）	0	10,000	
通信費	282,485	280,000	
印刷費	25,200	25,000	
旅費交通費	55,640	40,000	
業務委託料	2,244,000	2,244,000	
備品費	0	0	
事務用消耗品費	28,725	20,000	
諸会費	50,000	50,000	
雑費	5,800	5,000	
予備費	0	0	
当期支出合計 (C)	4,022,326	4,339,000	
当期収支差異 (A)-(C)	567,993	31,500	
次期繰越収支差額 (B)-(C)	6,380,360	6,411,860	

日本出版学会2024年度特別会計予算案

【 収 支 計 算 書 】

自2024年4月1日～至2025年3月31日

収 入 の 部			
科 目	2023年度決算	2024年度予算	備 考
前期繰越金	2,432,808	6,345,318	
周年記念事業寄付金（個人）	465,000	100,000	
周年記念事業寄付金（法人）	3,540,000	1,200,000	
東京経済大学補助金	0	3,000,000	
大会収入	0	300,000	
雑収入	16	200	
合 計	6,437,824	10,945,518	

支 出 の 部			
科 目	2023年度決算	2024年度予算	備 考
周年記念事業経費	—	6,000,000	
大会支出	0	—	
印刷費	47,866	—	
通信費	33,600	—	
事務費	6,235	—	
雑費	4,805	3,000	
予備費	0	0	
支 出 合 計	92,506	6,003,000	
繰 越 金	6,345,318	4,942,518	

2024－2025年度

理事・監事候補者

2024年6月8日

■理事候補者（五十音順）

飛鳥勝幸・安部由紀子・池下花恵・牛山佳菜代・榎本周平・梶原治樹・
駒橋恵子・柴野京子・清水一彦・鷹野凌・田上雄大・玉川博章・塚本晴二郎・
長尾宗典・中西秀彦・中村幹・福島聡・星野渉・本多悟・村木美紀・
元永純代・森貴志・矢口博之・山崎隆広・湯浅俊彦

■監事候補者（五十音順）

植村八潮・富川淳子